

平成29年度 全国学力・学習状況調査 葉山町の結果について（小・中学校）

葉山町教育委員会

目次

1 調査の概要

- (1) 調査の目的
- (2) 調査の方式
- (3) 集計児童・生徒及び学校数（葉山町立小・中学校関係）
- (4) 調査結果の解釈等に関する留意事項
- (5) 調査結果の見方

2 小学校に関する調査結果の概要

①【教科に関する調査の結果】

- (1) 全体の傾向
- (2) 国語
- (3) 算数

②【児童質問紙に関する調査の結果】

- (1) 家庭学習に関わる内容について
- (2) 学力向上に関わる内容について
 - ・学習規律に関すること
 - ・主体的な活動（話し合い活動・発表）に関すること
 - ・授業に関すること
- (3) 教科に関わる内容について

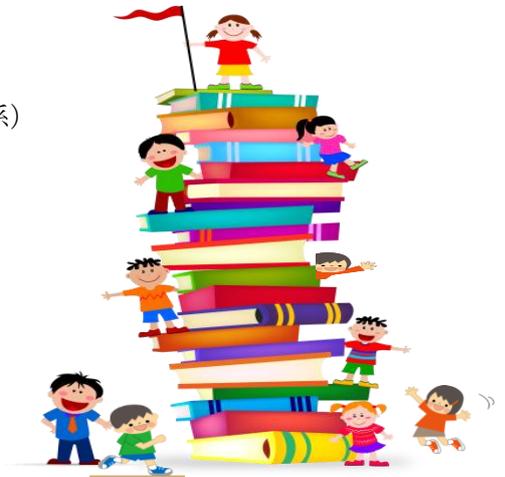
3 中学校に関する調査結果の概要

①【教科に関する調査の結果】

- (1) 全体の傾向
- (2) 国語
- (3) 数学

②【生徒質問紙に関する調査の結果】

- (1) 家庭学習に関わる内容について
- (2) 学力向上に関わる内容について
 - ・学習規律に関すること
 - ・主体的な活動（話し合い活動・発表）に関すること
 - ・授業に関すること
- (3) 教科に関わる内容について



1 調査の概要

平成29年4月18日に実施した「平成29年度 全国学力・学習状況調査」について、葉山町立小・中学校の児童・生徒の学力等の状況は、概ね次のとおりです。

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(出典：平成29年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領(文部科学省))

(2) 調査の方式 悉皆調査

- 【参考】 *平成19年度～平成21年度：悉皆調査
*平成22年度～平成24年度：抽出調査(※平成23年度は震災で中止)
*平成25年度～平成29年度：悉皆調査

(3) 集計児童・生徒及び学校数(葉山町立小・中学校関係)

○集計児童・生徒数

※4月18日に調査を実施した児童・生徒数

公立	葉山町	神奈川県	全国
小学校	257	70,683	999,723
中学校	248	64,742	982,511

○集計学校数

※4月18日に調査を実施した公立学校数

公立	葉山町	神奈川県	全国
小学校	4	860	19,335
中学校	2	418	9,464

※児童・生徒数及び学校数ともに、小学校は特別支援学校小学部、義務教育学校(前期)、中学校は中等教育学校(前期)、特別支援学校中学部、義務教育学校(後期)を含む。

(4) 調査結果の解釈等に関する留意事項

- 本調査の結果から読み取れることに関して、次のような点に留意する必要がある。
- ・実施教科が国語、算数・数学の2教科であり、学習指導要領の全てを網羅するものではないことから、児童生徒が身につけるべき学力の特定の一部分であること。
(※理科については、3年に一度、調査を実施している。平成27年度に実施済)
 - ・年度により問題の質が異なるため、学力の向上・低下の傾向を正答率のみで容易に評価することは難しいこと。

(5) 調査結果の見方

* 全国の平均正答率(公立)の±5%の範囲内であれば同程度と考える。

(出典：平成29年度全国学力・学習状況調査 報告書 平成29年8月 文部科学省)

(用語説明) ※ 平均正答率・・・平均正答数を百分率で表示。

- 国語A、国語B、算数A・数学A、算数B・数学Bごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率(概数)。
- 学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、設問ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童・生徒数を全体の児童・生徒数で割った値の百分率。

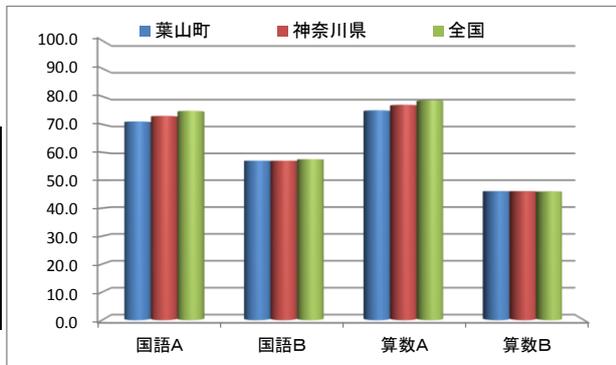
2 小学校に関する調査結果の概要

①【教科に関する調査の結果】

(1) 全体の傾向

【平均正答率 %】

	葉山町	神奈川県	全国
国語A	71.0	73.0	74.8
国語B	57.0	57.0	57.5
算数A	75.0	77.0	78.6
算数B	46.0	46.0	45.9



※A：主として「知識」に関する問題，B：主として活用に関する問題

- ・両教科A，Bの調査結果は，全国・県の平均正答率±5%範囲内であるため，全国・県と比較してもほぼ同程度と考えられる。
- ・国語Aは多くの設問で，全国・県と比べて正答率が低くなっている。国語Bは多くの設問で全国・県と同程度の正答率である。
- ・算数Aは多くの設問で，全国・県と比べて正答率が低くなっている。算数Bは多くの設問で全国・県と同程度の正答率である。

(2) 国語

結果の概要	<p>国語Aについては「話すこと・聞くこと」の正答率が高い。「書くこと」，「読むこと」，「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については，いずれも全国や県の正答率を下回っている。</p> <p>国語Bについては「話すこと・聞くこと」が全国や県の正答率を上回っている。「書くこと」については同程度の正答率であるが，「読むこと」については正答率が低く，課題がみられる。また，どの領域についても，無解答率が全国や県に比べて高い傾向がみられる。</p>
話すこと 聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・国語Aの「互いの話を聞き，考えの共通点や相違点を整理しながら，進行に沿って話し合う」については正答率が高い。 ・国語Bの「話の構成を工夫して話すことができるなどのスピーチのよさを捉える」については正答率が高い。 ・「目的や意図に応じて，話の構成や内容を工夫し，場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す」については全国や県の正答率を上回っている。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・国語Aの「目的や意図に応じ，内容の中心を明確にして書く」については正答率が高いが，「手紙の構成を理解し，後付けを書く」については正答率が低い。 ・国語Bの「目的や意図に応じて，文章全体の構成を考える」，「目的や意図に応じ，引用して書く」については正答率が高い。 ・国語Bの記述式問題，「目的や意図に応じ，必要な内容を整理して書く」，「物語を読み，具体的な叙述を基に理由を明確にして，自分の考えをまとめる」については正答率が低い。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・国語Aの「目的に応じて，文章の中から必要な情報を見つけて読む」については正答率が高いが，「俳句の情景を捉える」については正答率が低い。 ・国語Bの「自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える」については正答率が低い。「登場人物の相互関係や心情，場面についての描写を捉える」についても全国や県と比べて正答率が低い。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・国語Aの「学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く」については正答率が低い。また，「学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む」についても，全国と県の正答率を下回っている。 ・国語Aの「ことわざの意味を理解して，自分の表現に用いる」，「古文における言葉の響きやリズムを楽しみながら読む」については全国や県と比べて正答率が低い。

今後の取組みの重点	<p>○課題の改善に向けて，以下のような取組みが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語を読んで感想を伝え合い，一人ひとりの感じ方に違いがあることに気づき，自分の考えを広げたり深めたりすること。 ・実用的な文章を書く際に，書く相手や目的を明確にしなが，書く必要のある事柄を選んだり構成したりすることができるようにすること。 ・俳句の指導に当たっては，情景や作者の思いを想像し，美しい響きを感じ取りながら音読したり暗唱したりして，文語の調子に親しむことができるようにすること。 ・漢字を習得し語彙を拡充するために，国語辞典や漢字辞典を日常的に利用して調べる習慣を付けること。辞書利用について学習する第3学年から意図的・計画的に指導すること。 ・日常の読書においては，より豊かに想像することができるように，叙述と自分の体験や他者の解釈とを結び付けたり，他の作品と比べたりして読むこと。
-----------	--

(3) 算数

結果の概要	算数Aは「量と測定」、「図形」については全国や県とほぼ同程度の正答率であるが、「数の計算」、「数量関係」については下回っており、課題がみられる。 算数Bについては、「数と計算」、「量と測定」については全国や県とほぼ同程度の正答率であるが、「数量関係」や「図形」については正答率が低く、課題が見られる。 算数A・B共に、どの出題についても、無解答率が全国・県を上回っている点が課題である。
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> 算数Aの「二つの数の最小公倍数を求めることができる」については正答率が高く、全国・県を上回っている。 算数Aの「加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる」、「商を分数で表すことができる」については正答率が全国・県を下回っている。 算数Bの「示された条件を基に、適切な式を立てることができる」、「数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを、図に表現することができる」については正答率が高い。 算数Bの「二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきを記述できる」、「直線の数とその間の数の関係に着目して、示された方法を問題場面に適用することができる」については正答率が低く、課題が見られる。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> 算数Aの「任意単位による測定について理解している」については正答率が高いが、「高さが等しい平行四辺形と三角形について、底辺と面積の関係を理解している」については全国・県の正答率を下回っている。 算数Bの「飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を判断することができる」については全国・県の正答率を上回っている。 算数Bの「仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述できる」については正答率が低い。
図形	<ul style="list-style-type: none"> 算数Aの「立方体の面と面の位置関係を理解している」については正答率が高いが、「正五角形は、五つの合同な二等辺三角形で構成できることを理解している」については全国・県の正答率を下回っている。 「示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述できる」、「図形を構成する角の大きさを基に、四角形を並べてできる形を判断することができる」については正答率が低く、課題がみられる。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> 算数Aの「乗法で表すことができる二つの数量の関係を理解している」、「資料を二次元表に分類整理することができる」については正答率が高い。 算数Aの「資料から、二次元表の合計欄に入る数を求めることができる」については全国・県の正答率を下回っている。 算数Bの「割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶことができる」、「身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述できる」は正答率が低い。

今後の取組みの重点	<p>○課題の改善に向けて、以下のような取組みが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 計算の順序については、そのきを単に暗記するのではなく、具体的な場面と式の表現とを結びつけながら理解できるようにすること。 整数の除法の結果は、分数を用いると常に一つの数として表すことができることを理解できるようにすること。指導に当たっては、図や数直線を使って考える場を設定することが考えられる。 二次元表に示された数値が適当なものかどうかを確かめる方法として、「合計」の数値に着目し、合計欄から確かめる活動を行うこと。 目的に応じて資料を集めて分類整理したり、それを表やグラフなどに分かりやすく表現したり、特徴を調べたり、読み取ったりすること。 目的に応じて表やグラフを選択したり、関連付けて用いたり、日常生活の改善のために活用したりすること。
-----------	---

②【児童質問紙に関する調査の結果】

<抽出項目について>

「葉山町学びづくり研究推進事業」で取組んでいる内容に深く関連している項目(「家庭学習」、「学力向上」、「教科」)に関わる設問を児童質問紙の中から抽出しています。これらの結果から、成果と課題を振り返り、今後の授業づくりに必要な視点を見出し、家庭との連携についてさらなる充実を図ることをねらいとしています。また、小学校から中学校への学びの連続性を考慮し、小・中共通の設問を抽出し分析しています。

(1) 家庭学習に関わる内容について

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)
※①・②の数値は、それぞれの欄に記載した回答の割合

質問紙より抽出	小学校		
	葉山町	神奈川県	全国
① 家で、学校の宿題をしていますか	95.3	96.4	96.9
② 家で、学校の授業の復習をしていますか	41.6	44.1	53.8
③ 家で、学校の授業の予習をしていますか	38.5	38.6	41.0
④ 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	59.5	62.5	64.5
⑤ 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む) ※「1時間以上」と回答した割合	60.7	59.7	64.4
⑥ 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む) ※「1時間以上」と回答した割合	52.5	52.4	57.3

課題及び改善点	学校の授業時間以外に学習している時間や学校が休みの日の学習時間は全国と比較して低い割合となっている。また、家庭での予習、復習、自学自習についての取組みも、やや低い割合となっており、これは例年の傾向である。学習習慣が確立していない児童について、学校はこれまで以上に家庭と連携しながら家庭学習の充実を図っていくことが必要である。
---------	--

**(2) 学力向上に関わる内容について
(学習規律,主体的な活動,授業)**

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば,当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		小学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	学校のきまりを守っていますか	85.6	91.6	92.6
②	先生は,授業やテストで間違えたところや,理解していないところについて,分かるまで教えてくれますか	80.6	81.6	85.1
③	5年生までに受けた授業では,先生から示される課題や,学級やグループの中で,自分たちで立てた課題に対して,自ら考え,自分から取り組んでいたと思いますか	79.4	77.4	77.9
④	5年生までに受けた授業では,自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか	80.5	82.9	84.7
⑤	5年生までに受けた授業では,学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか	80.5	82.5	84.5
⑥	5年生までに受けた授業では,学級やグループの中で自分たちで課題を立てて,その解決に向けて情報を集め,話し合いながら整理して,発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか	72.8	73.9	75.1
⑦	5年生までに受けた授業で,学級の友達と話し合う活動では,話し合う内容を理解して,相手の考えを最後まで聞き,自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますか	76.2	76.7	78.1
⑧	5年生までに受けた授業で,自分の考えを発表する機会では,自分の考えがうまく伝わるよう,資料や文章,話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか	61.9	65.6	64.9
⑨	学級の友達との間で話し合う活動を通じて,自分の考えを深めたり,広げたりすることができていると思いますか	70.4	67.4	68.2
⑩	5年生までに受けた授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか	80.5	85.5	88.2
⑪	5年生までに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか	53.3	72.8	76.2
⑫	5年生までに受けた授業で扱うノートには,学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていたと思いますか	75.9	85.3	88.7

課題 及び 改善点	授業の中での話し合い活動や発表の場は定着してきているが,引き続き,より充実した話し合い活動を工夫し,児童の思考力や表現力の育成を目指した授業を実践していくことが必要である。授業の初めには目標を提示し,最後には学習内容を振り返る活動を徹底すること,また,効果的なノート指導を工夫すること等については最重要課題として取組まなくてはならない。
-----------------	--

(3) 教科に関わる内容について

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば,当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		小学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	国語の勉強は好きですか	54.1	62.7	60.5
②	国語の授業の内容はよく分かりますか	80.5	83.4	82.2
③	読書は好きですか	68.1	72.5	74.3
④	今回の国語の全ての書く問題で,最後まで解答を書こうと努力しましたか	77.0	74.5	77.2
⑤	算数の勉強は好きですか	60.7	66.1	65.9
⑥	算数の授業の内容はよく分かりますか	80.2	79.3	80.6
⑦	算数の問題の解き方が分からないときは,諦めずにいろいろな方法を考えますか	84.4	79.3	81.1
⑧	算数の授業で問題を解くとき,もっと簡単に解く方法がないか考えますか	84.0	80.7	81.4

課題 及び 改善点	多くの児童に,学ぶことに対する興味や関心を持たせるような工夫が必要である。学習に対する意欲や粘り強さが育ちつつあるので,主体的に学び続けるための手立てを模索しながら,引き続き授業改善に努めたい。国語・算数共に無解答率がやや高い傾向にあることを踏まえ,改善の方策を探っていくことも必要である。
-----------------	---

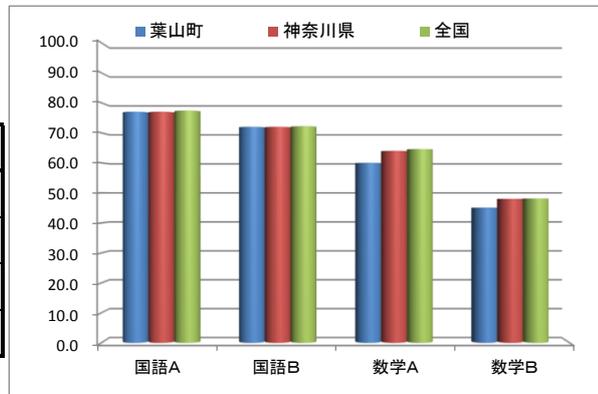
3 中学校に関する調査結果の概要

①【教科に関する調査の結果】

(1) 全体の傾向

【平均正答率 %】

	葉山町	神奈川県	全国
国語A	77.0	77.0	77.4
国語B	72.0	72.0	72.2
数学A	60.0	64.0	64.6
数学B	45.0	48.0	48.1



※A：主として「知識」に関する問題，B：主として活用に関する問題

- ・両教科A，Bの調査結果は，全国・県の平均正答率±5%範囲内であるため，全国・県と比較してもほぼ同程度と考えられる。
- ・国語はA，Bともに多くの設問で，全国や県の正答率と同程度である。
- ・数学はA，Bともに多くの設問で，全国や県と比べて正答率が低くなっている。

(2) 国語

結果の概要	国語Aについては，基礎的・基本的な知識・技能の定着は概ね図られている。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」における「言語についての知識・理解・技能」については若干の課題がみられた。国語Bについても，理解の定着は概ね図られている。「話すこと・聞くこと」に関する項目については，やや課題がみられた。
話すこと 聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・国語Aの「事実と考えとの関係に注意し，構成を工夫して話す」，「相手に分かりやすいように語句を選択して話す」については，全国・県の正答率を上回っている。「話すための材料を人との交流を通して集める」については，全国・県の正答率を下回っている。 ・国語Bの「目的に応じて資料を効果的に活用して話す」，「話の論理的な構成や展開などに注意して聞く」については全国・県の正答率を下回っている。また，「相手の反応を踏まえながら，事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話す」についても正答率が低い。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・国語Aの「書いた文章についての助言を基に，自分の表現を見直す」，「文章の構成を工夫して分かりやすく書く」，「目的や意図に応じて材料を集め，自分の考えをまとめる」については正答率が高い。 ・国語Bの「集めた材料を整理して文章を構成する」，「必要な情報を集めるための見通しをもつ」については正答率が高い。 ・国語Bの「表現の仕方について捉え，自分の考えを書く」については全国・県の正答率を上回っている。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・国語Aの「文章の要旨を捉える」，「文章の構成や展開，表現の特徴について自分の考えをもつ」，「文章の表現の仕方について自分の考えをもつ」については正答率が高く，全国・県とも同程度である。 ・国語Bの「登場人物の言動の意味を考え，内容を理解する」，「目的に応じて必要な情報を読み取る」については正答率が高い。「場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み，内容を理解する」については，正答率が高いが，全国や県の正答率を下回っている。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・国語Aの「助詞の働きについて理解する」，「古文と現代語訳とを対応させて内容を捉える」については正答率が高い。「楷書と行書との違いを理解する」についても全国や県の正答率を上回っている。 ・国語Aの「事象や行為などを表す多様な語句について理解する」については正答率が低い。また，「文脈に即して漢字を正しく書く」，「文脈に即して漢字を正しく読む」，「語句の意味を理解し，文脈の中で適切に使う」についても全国や県の正答率を下回る傾向がみられる。

今後の取組みの重点	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や社会生活の中で使われる，事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに，話や文章で用いる語彙を豊かにしようとする。 ・スピーチなどをする際に，自分の伝えたいことを聞き手に分かりやすく伝えるためには，事実や事柄と，それに対する自分の考えや感想などとの関係に注意して話すこと。 ・文学的な文章を読んで，感じたことや考えたことを書く際には，なぜそのように感じたのか，文章のどこからそのように考えたのかなどについて，根拠を明確にして書くこと。
-----------	---

(3) 数学

結果の概要	数学Aについては、「数と式」や「資料の活用」における「数学的な技能」、「図形」における「数量や図形などについての知識・理解」について特に課題がみられた。数学Bについては、「関数」における「数学的な技能」、「図形」における「数学的な見方や考え方」、「数学的な技能」について正答率が低く課題がみられた。
数と式	<ul style="list-style-type: none"> 数学Aの「与えられた文字式の意味を、具体的な事象の中で読み取ることができる」については正答率が高い。「数量の関係を文字式で表すことができる」、「扇形の弧の長さを求めることができる」については正答率が低い。 数学Aの「加減乗除を含む正の数と負の数の計算において、計算のきまりにしたがって計算できる」、「具体的な場面で、一元一次方程式をつくることができる」、「空間における直線と平面の平行について理解している」、「見取図に表された立方体の面上の線分の長さの関係を読み取ることができる」については、全国や県の正答率を下回っている。
図形	<ul style="list-style-type: none"> 数学Aの「錯角の意味を理解している」については全国や県の正答率を上回っており、「証明の根拠として用いられる三角形の合同条件を理解している」についても正答率が高い。 数学Bの「2つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明することができる」については正答率が低い。また、「事象を図形間の関係に着目して観察し、対称性を的確に捉えることができる」についても全国や県の正答率を下回っている。 数学Bの「筋道を立てて考え、(三角形の合同を)証明することができる」、「付加された条件の下で、図形の性質を用いることができる」については正答率が低く、全国や県の正答率も下回っている。
関数	<ul style="list-style-type: none"> 数学Aの「与えられた一次関数の表において、変化の割合の意味を理解している」については全国や県の正答率を上回っている。「関数の意味を理解している」、「与えられた比例の表において、比例定数の意味を理解している」については正答率が低い。 数学Aの「与えられた比例の式について、xとyの関係を$y=ax$の式で表すことができる」、「具体的な事象における2つの数量の変化や対応を、グラフから読み取ることができる」については全国や県の正答率を下回っている。 数学Bの「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる」については、正答率が高い。「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」、「数学的な表現を事象に即して解釈し、的確に処理することができる」については正答率が低い。
資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> 数学Aの「範囲の意味を理解している」、「与えられた度数分布表について、ある階級の相対度数を求めることができる」については正答率が低い。「『同様に確からしい』ことの意味を理解している」、「簡単な場合について、確率を求めることができる」については、全国や県の正答率を下回っている。 数学Bの「与えられた情報から必要な情報を選択し、事象に即して解釈することができる」、「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」については、正答率が低い。
今後の取組みの重点	<ul style="list-style-type: none"> ○課題の改善に向けて、次のような取組みが考えられる。 ・ 比例、反比例の比例定数の意味を理解できるようにするために、aを比例定数とした式で表されることを確認すること。 ・ 相対度数の必要性和意味について理解できるようにするために、ある階級の度数の総度数に占める割合を求めて、資料の傾向を読み取る活動を取り入れること。 ・ 数学的な結果を事象に即して解釈できるようにするために、問題解決において用いた式を事象に即して捉え直す活動を取り入れること。 ・ 事柄が成り立つ理由を道筋を立てて考え、証明ができるようにするために、結論を導くには何がわかればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質や関係を見出したりする活動を取り入れること。

②【生徒質問紙に関する調査の結果】

＜抽出項目について＞
 「葉山町学びづくり研究推進事業」で取組んでいる内容に深く関連している項目(「家庭学習」、「学力向上」、「教科」)に関わる設問を生徒質問紙の中から抽出しています。これらの結果から、成果と課題を振り返り、今後の授業づくりに必要な視点を見出し、家庭との連携について、さらなる充実を図ることをねらいとしています。また、小学校から中学校への学びの連続性を考慮し、小・中共通の設問を抽出し分析しています。

(1) 家庭学習に関わる内容について

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)
 ※①・②の数値は、それぞれの欄に記載した回答の割合

質問紙より抽出		中学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	家で、学校の宿題をしていますか	77.3	84.0	89.5
②	家で、学校の授業の復習をしていますか	40.5	44.2	50.5
③	家で、学校の授業の予習をしていますか	32.0	35.5	31.7
④	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	50.6	50.4	51.5
⑤	学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む) ※「1時間以上」と回答した割合	72.0	71.7	69.6
⑥	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む) ※「1時間以上」と回答した割合	66.1	66.4	69.4

課題及び改善点	学校の授業時間以外(月～金)に学習している割合は、全国と比較して高い割合となっている。学校の授業の予習についても、全国と比較して同程度の割合で学習ができていると考えられる。今後は学習習慣の確立を図る為、復習を含めた学校からの課題の出し方を検討すると共に、家庭と協力した「家庭学習」を、さらに推進していくことが必要である。
---------	--

**(2) 学力向上に関わる内容について
(学習規律,主体的な活動,授業)**

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば,当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		中学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	学校の規則を守っていますか	93.1	93.5	95.2
②	先生は,授業やテストで間違えたところや,理解していないところについて,分かるまで教えてくれますか	76.1	72.6	75.5
③	1,2年生のときに受けた授業では,先生から示される課題や,学級やグループの中で,自分たちで立てた課題に対して,自ら考え,自分から取り組んでいたと思いますか	74.9	72.9	74.9
④	1,2年生のときに受けた授業では,自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか	84.6	82.1	84.4
⑤	1,2年生のときに受けた授業では,生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか	87.5	77.6	81.8
⑥	1,2年生のときに受けた授業では,学級やグループの中で自分たちで課題を立てて,その解決に向けて情報を集め,話し合いながら整理して,発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか	74.1	69.9	71.3
⑦	1,2年生のときに受けた授業で,生徒の間で話し合う活動では,話し合う内容を理解して,相手の考えを最後まで聞き,自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますか	74.5	71.2	73.5
⑧	1,2年生のときに受けた授業で,自分の考えを発表する機会では,自分の考えがうまく伝わるよう,資料や文章,話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか	65.6	59.7	57.9
⑨	生徒の間で話し合う活動を通じて,自分の考えを深めたり,広げたりすることができていると思いますか	70.5	63.0	64.8
⑩	1,2年生のときに受けた授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか	89.9	81.8	87.8
⑪	1,2年生のときに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか	64.4	60.6	66.1
⑫	1,2年生のときに受けた授業で扱うノートには,学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていたと思いますか	82.2	72.4	80.3

課題 及び 改善点	多くの設問において,全国や県の割合を上回っており,日頃から,話し合い活動を取り入れた課題解決学習型の授業が行われていることがわかる。生徒が話し合い活動に積極的に参加し,授業における発表の場が定着してきた中で,その活動が確かな学力の向上につながっているのか,形式だけにとどまっていないかを丁寧に検証することが必要である。授業の中での,めあてやねらいの提示,振り返り活動によるまとめは,ここ数年で定着してきている。今後はさらに,生徒に付けさせたい力を意識しながら授業づくりに取り組むことが必要である。
-----------------	--

(3) 教科に関わる内容について

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば,当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		中学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	国語の勉強は好きですか	65.2	62.3	60.5
②	国語の授業の内容はよく分かりますか	81.4	76.7	74.9
③	読書は好きですか	67.2	64.9	69.9
④	国語の問題について,解答を文章で書く問題がありましたが,最後まで解答を書こうと努力しましたか	93.1	94.7	95.9
⑤	数学の勉強は好きですか	55.9	57.9	55.4
⑥	数学の授業の内容はよく分かりますか	77.3	72.7	69.4
⑦	数学の問題の解き方が分からないときは,諦めずにいろいろな方法をかんがえますか	69.6	72.5	73.5
⑧	数学の授業で問題を解くとき,もっと簡単に解く方法がないか考えますか	68.4	70.6	71.2

課題 及び 改善点	両教科共に,「勉強が好き」,「内容がよく分かる」という生徒の割合が全国を上回っており,国語についてはさらに県の割合も上回っている。日々の授業改善によって生徒の意欲が向上してきていることが分かる。今後は苦手意識を持つ生徒への手立ての工夫や思考を深める場面を効果的に設定する授業づくりを,さらに推進していく必要がある。
-----------------	---